大使コラム（2013 年 1 月）

２０１３年、新しい年を迎えるにあたり、皆様には謹んでご挨拶を申し上げます。
リスボンでは、年末年始も晴天が続き、気温も昼間は１５度前後と爽やかな気候が続いています。日本の冬の寒さに比べ、この地の温暖な気候はありがたく思います。

当国では、コエーリョ首相の連立政権が発足して１年半が経ちました。ＥＵ、欧州中銀、ＩＭＦの「トロイカ」から３年間で７８０億ユーロの融資を受け、財政再建と経済成長の支援プログラムを実施する「トロイカ合意」も、計画の中間点を迎えんとしています。経済危機の深刻さから、厳しい負担を伴う緊縮策や弱者保護を弱めても経済効率を高めんとする構造改革に、国民は暗黙の支持を与えて来たように見えます。しかし、昨年秋に全国で大規模な抗議行動が発生して以来、緊縮策への反対の声が大きくなり、潮目が変わったようにも見られます。
本年は、前例のない大幅な増税策を柱とした緊縮予算が実施されることになりました。この予算には税負担に不平等があるとの疑義が出されており、野党議員は憲法裁判所に違憲訴訟を行う構えです。昨年の例に照らせば、違憲判決が出る可能性もあると言われています。また、今月の給与が支給された時点で、給与所得者は新たな増税の重さを実感し、あらためて緊縮策への不満が高まるとの予想も見られます。
マクロ経済でも、政府の緊縮財政にもかかわらず税収効果も出ない中、昨年の財政赤字目標５％の達成さえ危うい状況です。また国民は、増税や給与削減で可処分所得がさらに減少し、失業率の増加も深刻です。企業活動も、輸出や観光業の健闘はあるものの、国内消費や設備投資の低迷で、景気後退は深刻です。他方、ＧＤＰデフレーターが昨年第２四半期からマイナスに転じてきたことも懸念されます。
明年後半にはＧＤＰの下落が底を打つとの政府の見通しも、なかなか楽観できません。欧州のユーロ危機は、制度的手当が徐々に進んで、当面の危機は避けられたようにも見えますが、経済の再生には至っていません。欧州の経済状況が直に影響するポルトガル経済としては、この点も重要な問題です。

経済の厳しさが増す中、政治面でも野党の社会党の支持率が与党を上回ってきています。議会で過半数を占めるとはいえ、国民の不満が高まれば政府の緊縮策にも影響が出るでしょう。１０月の統一地方選挙はまだ先ですが、各党はこの選挙を政治の流れを代える節目と見て動いていくようです。西欧では、中央政党の指導者が大都市の首長を経験して中央に戻る例は少なくありません。
政府は、引き続き「トロイカ合意」の実施を最優先に進めて行くでしょう。しかし、国民や野党の厳しい批判を受け、緊縮策と国民負担のバランスをどのように取っていくのか、これからも目が離せない状況です。

昨年のポルトガル外交についても言及しておきたいと思います。
当国は２年にわたる国連安全保障理事会の非常任理事国の任期を、昨年末に終えました。当国は安保理の理事国として、例えば中東での「アラブの春」に係わる問題などで、大きな役目を果たしました。また、厳しい経済事情にもかかわらず、アフリカなどのポルトガル語圏への経済協力にも努力を続けました。ＮＡＴＯの一員として、アフガン、コソボへ、またＥＵの一員としてソマリアやインド洋へ、さらに国連の活動としてレバノンや東チモールへ軍事要員の派遣や経済面での貢献を引き続き行ったことは、国際社会の一員としての責任感の表れと評価できるでしょう。
経済面でも積極的な外交を見せました。大統領、首相、外務大臣その他政府の高官が手分けして頻繁に外遊を行い、特に経済面での苦境を克服するため、投資の誘致や貿易の促進に努めたことは、特筆すべき動きだったと思います。外務大臣の外遊は、この１年半で３０回にも上りました。
日本との関係でも、先月の経済雇用省の副大臣２名の訪日やそれに先立つリスボン市長の訪日は、リスボン市でのスマート･シティー計画や再生可能エネルギー分野での新たな協力を進めるものでした。本年は、これらを発展させるとともに、さらに外交や経済の面で、これまでにない協力関係が実現するよう、大使館でも努力を重ねたいと考えています。

本年はポルトガル人が１５４３年に種子島に漂着してから、４７０周年に当たります。西欧人が初めて我が国に渡来した歴史的なこの事件は、日本人なら小学校以来、日本史の授業で何度も習う話です。この記念すべき年に、新たな日ポ関係の発展を期すべく、大使館でも関係者の方々と協力して、年間を通じた各種の記念行事を行いたいと考えています。
大使館としては、文化交流はもとより、経済面での交流の促進や政治･外交面での協力、ハイレベルの人の交流、地方同士の交流など、特に大使館でなければ実現できない企画に対し、限られた資源を集中したいと考えています。日本でも在京大使館や、日本ポルトガル友好協会などが、同趣旨の事業を企画しているとお聞きしています。当地でも、先月の天皇誕生日の祝賀会で、４７０周年記念行事のロゴを発表いたしました。いずこも厳しい財政事情にありますが、創意工夫と努力次第で、大きな可能性を実現することができるでしょう。今年も皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

時節柄、ご自愛の程をお祈り申し上げます。